

MCS ハートフル A 株式会社さいたまセンター
第 3 回 第三者委員会 議事抄録



開催日時 平成 31 年 1 月 24 日木曜日
開催場所 MCS ハートフル A 会議室

参加者 阿部和正委員、渡邊 寛委員、今野雅彦施設長(MCS ハートフル A 代表取締役社長)、横島 昇(MCS ハートフル A 総務グループ課長)、以上 4 名

※富田委員は欠席につき、後刻改めて報告を行う。

式次第

- 1.開会挨拶 今野施設長
- 2.委員挨拶 阿部委員



・日々の努力に敬意を表したい。昨今言われるメンタルヘルスについても、当施設は真摯に取り組んでいることと思うが、些細なことにも注意を払い、決して見過ごすことの無いようにお願いしたい。利用者社員、指導員ともコミュニケーションをよくはかり、楽しく仕事ができる環境を築いてほしい。

渡邊委員



・社労士が誕生して 50 年の節目を迎えた。社労士の果たす役割は、特に中小企業を如何に活性化させるかにかかっているが、障害者雇用という面においては、積極的な会社とそうでない会社に明確に分かれている。中小企業であれ、法令順守(コンプライアンス)、企業の社会的責任(CSR)のもと、人を大切にして、自らができることに一步一步取り組んでいく、そうした企業を育てていながら、100 周年を目指して、社労士としての社会的認知度をますます高めて参りたい。

3.報告事項



・今野から、資料に基づいて、MCS ハートフル A の第 2 期(平成 29 年 9 月～平成 30 年 8 月)の事業報告、収支報告を含めて、就労継続支援 A 型事業所としての活動内容(サービス内容、訓練の様子、その他)及び苦情・相談内容について、詳しく説明した。

更に、昨年 9 月に学研ホールディングスグループの一員になったことを踏まえて、同グループとの連携の様子や MCS グループの障害者雇用の状況、就労継続支援 A 型事業所を取り巻く現状についても報告した。

4.質疑応答

- ・各委員からは、(知的に障害のある)利用者の目標立てについて、レクリエーションの実施について、相談内容の詳細について、最低賃金の順守について等々の質問等発言があった。
- ・知的障がいのある人に対する目標の設定はどのようにしているのか。
→毎月月末に当該月の振り返りを行い、翌月の目標立てを行っている。当



施設では、就労継続支援 A 型事業所となる以前から、清掃個所ごとの格付け検定試験を実施しており、それにより各利用者の個別の特性や特徴をできるだけ客観的に把握できるように注力してきた。その結果が、個別支援計画に反映され、利用者個人と指導員との共通の目標となり、課題となって、日々取り組んでいる。また、個々の成長の度合いは極めて個人差があるが、数年単位でみればいずれも着実に成長している点が確認できる。

- ・当施設では、ボウリングやティーボールなど定期的には実施しているが、ボッチャやフライングディスクなど、障害のあるなしにかかわらず楽しめるスポーツも見受けられるが、活動の幅を広げる意向はあるか

→当施設の利用者においては、ボウリング、ティーボール以外にもフットベースボール(の埼玉県代表)であるとか、野球、サッカーなどを行っている者もいる。埼玉県障害者スポーツ協会などからは、委員が言われるボッチャやフライングディスクを勧められており、検討しているところである。

- ・相談内容について、人間関係の問題が多いとあるが、差支えの無い範囲で内容を開示願いたい。

→人間関係ということは、ほとんどがコミュニケーションの問題と言えるかもしれない。意思の疎通が苦手というか、ストレートに表現してしまうことが多く、誤解して受け止められることが相談の大半を占めていると感じている。相手の真意が理解できないことから、不安になったり、疑心暗鬼になるようだ。指導員に相談する人もいれば、精神保健福祉士(PSW)に相談する人も多いが、いずれも話をすると、ほぼ 8 割は解決している内容であると思われる。

- ・最低賃金の順守について、中小企業の中には障がいのある人を雇用していても最低賃金を支払っていないところも少なくない。障がいのある人にとっては、障がいの無い人と同様の仕事をしていても賃金の差があることに疑問を持つ人もいないか。こうした点について、当施設として、関与できることはあるのか。

→当該施設においては、埼玉県の最低賃金以上の賃金を支払っている。また、平均労働時間は 1 日 7 時間、週 35 時間以上をキープしており、就労継続支援 A 型事業所としては模範的な事業所であると自負している。

障がいのある人の賃金が安くて良いという考えは間違っており、どのようにして雇用している人を戦力にして生産性を高めていくかを考えることは、経営者の基本的な職務であり、その点については、障がいがあるかないかは問題ではないと考える。障がいのある人には得意不得意が明

確な人が多く、その不得意・苦手な部分を治具などを用いて如何にフォローするかがポイントだと思う。様々な工夫をすることによって、数を数えることが苦手な人でも、正確に個数をそろえることができる治具、工夫は沢山あるので、そうした我々の経験や蓄積を多くの企業と共有することによって、障害者雇用が広がっていくことを期待する。また、希望があれば、見学も歓迎したので、ご紹介いただきたい。

5.まとめ・感想 阿部委員

- さまざま課題はあると思うが、おおむね順調に推移していると感じた。歯科検診などにも関与しているが、数年越しに歯科治療がなされ、これまで指摘してきた個所が改善されている人を見ていると、時間はかかるけれども、継続することに意味があると感じさせられた。今後も、当施設の活動を注視していきたい。

渡邊委員

- この1年についての活動をうかがって大変有意義な時間であったと感じている。自身の業務、プライベートの活動とも様々な点でリンクするところもあり、専門分野ではないけれども、今後も第三者委員として積極的に関与していきたい。

以 上